

2027年3月期 第1四半期

決算補足説明資料

2026年8月10日

証券コード:3741

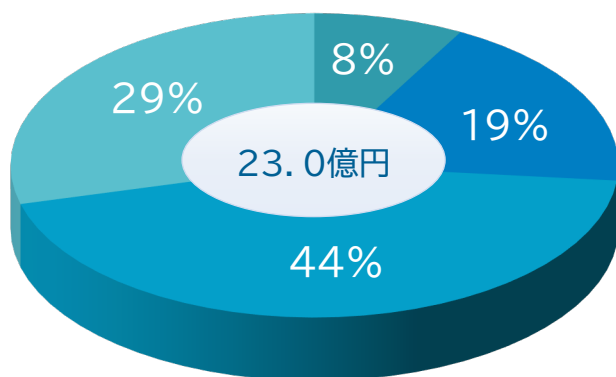


2027年3月期 第1四半期

決算概要

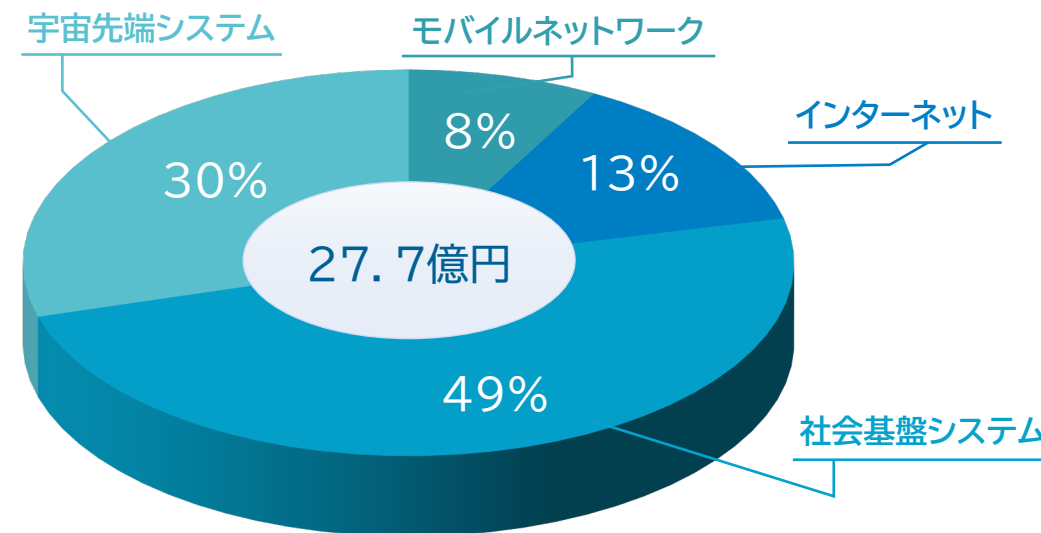
事業環境

IT需要は全体的には概ね堅調



2026年3月期第1四半期

需要構造の変化に応じ
柔軟に対応



2027年3月期第1四半期

モバイルネットワークBF

全体的に減少傾向であるものの、一部大手通信事業者向けの大規模案件の開発が増加

インターネットBF

民間企業向けのDX関連の開発が増加したものの、非接触IC関連の開発ピークが過ぎたことなどにより減少

社会基盤システムBF

司法分野をはじめとした官公庁向け
の開発が引き続き好調

宇宙先端システムBF

車両自動走行の研究開発案件や宇宙関連の開発が堅調

2027年3月期第1四半期総括

売上高、営業利益、経常利益の全てで過去最高
前年同期比で増収増益

	当期（百万円）	前年同期比	利益率
売上高	2,772	120.5%	
営業利益	440	151.6%	15.9%
経常利益	517	160.6%	18.7%
当期純利益	353	158.9%	

受注高は過去4位、受注残高は過去最高

	当期（百万円）	前年同期比
受注高	1,718	66.4%
受注残高	8,010	122.3%

先端技術を窮め、オープン・イノベーションで事業成長を目指す

官公庁向けの開発が引き続き好調であり、車両自動走行の研究開発案件や宇宙関連の開発が増加するなど、需要構造の変化に全BF最適化の視点で対応した。

売上高、営業利益、経常利益の全てで過去最高となり、増収増益となった。

受注高は前年度第4四半期の好調な受注により過去4位となったが、受注残高は前年同期を上回り過去最高となった。

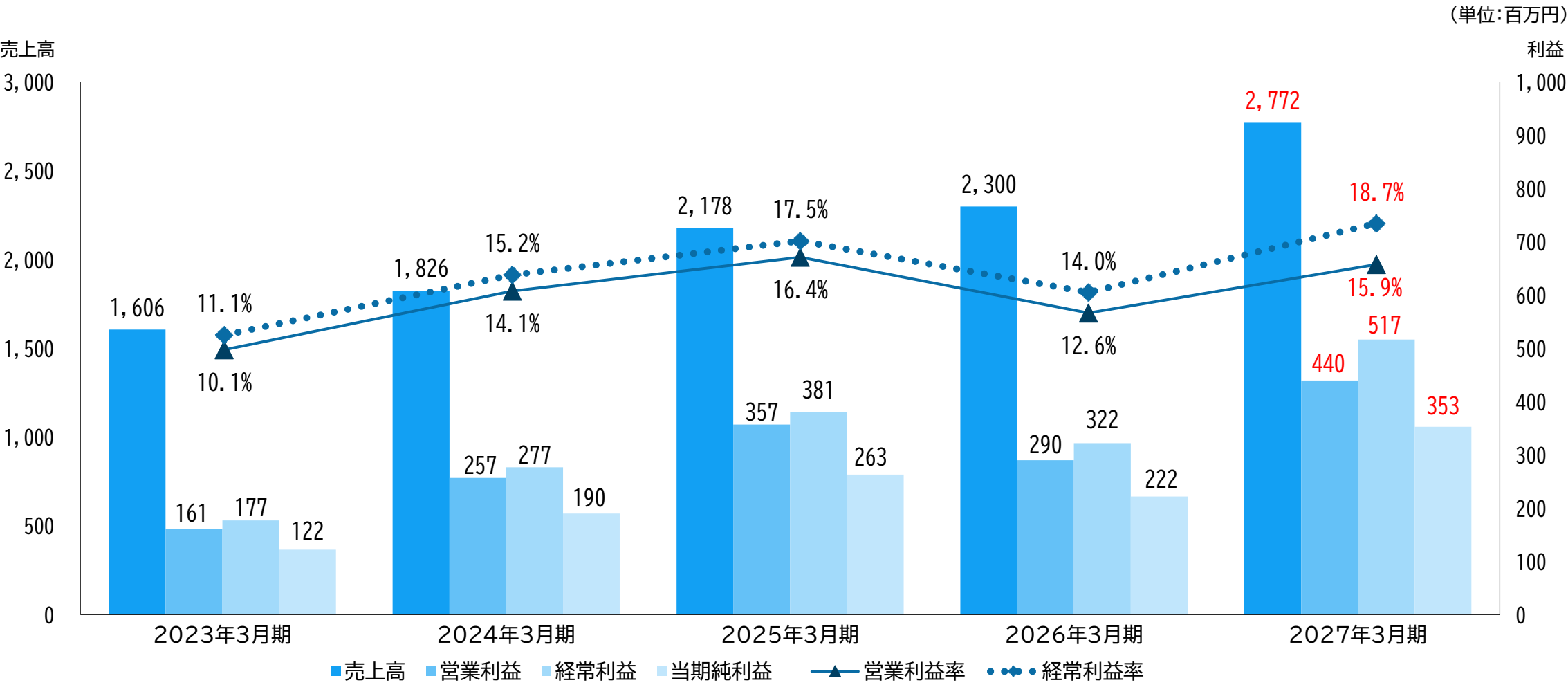
第1四半期損益計算書

	2026年3月期第1四半期 (百万円)	2027年3月期第1四半期 (百万円)	前年同期比 (%)	期初予想 (百万円)	計画達成率 (%)
売上高	2,300	2,772	120.5	—	—
売上原価	1,646	1,896	115.2	—	—
売上総利益	653	876	134.0	—	—
販売管理費	363	435	120.0	—	—
営業利益 (営業利益率)	290 (12.6%)	440 (15.9%)	151.6	—	—
経常利益 (経常利益率)	322 (14.0%)	517 (18.7%)	160.6	—	—
当期純利益	222	353	158.9	—	—

売上原価 外注費が大幅に増加(1,093百万円、前年同期比24.8%増／売上高外注比率39.4%、前年同期比1.3%増)、定期昇給・ベースアップにより人件費が増加
販売管理費 新入社員の増加、定期昇給・ベースアップにより労務費が増加、研究開発費は84百万円で、前年同期比で83.4%増
営業外損益 研究開発の補助金収入が大幅に増加(56百万円、前年同期比292.1%増)

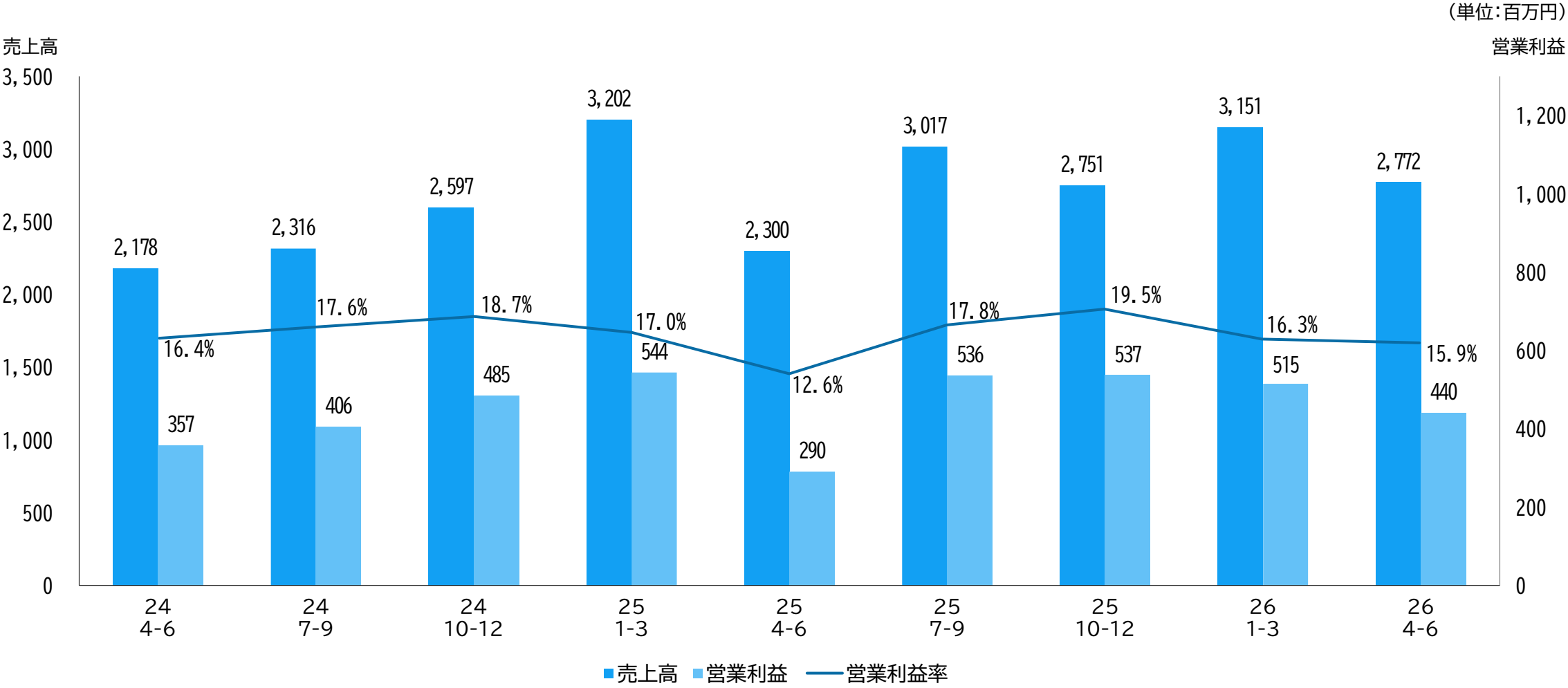
第1四半期決算業績推移(過去5年)

売上高、営業利益、経常利益、当期純利益の全てで過去最高



四半期業績推移(PL)

前年度第1四半期は増収減益、第2、第3四半期は増収増益、第4四半期は減収減益となったが、当四半期は再び増収増益

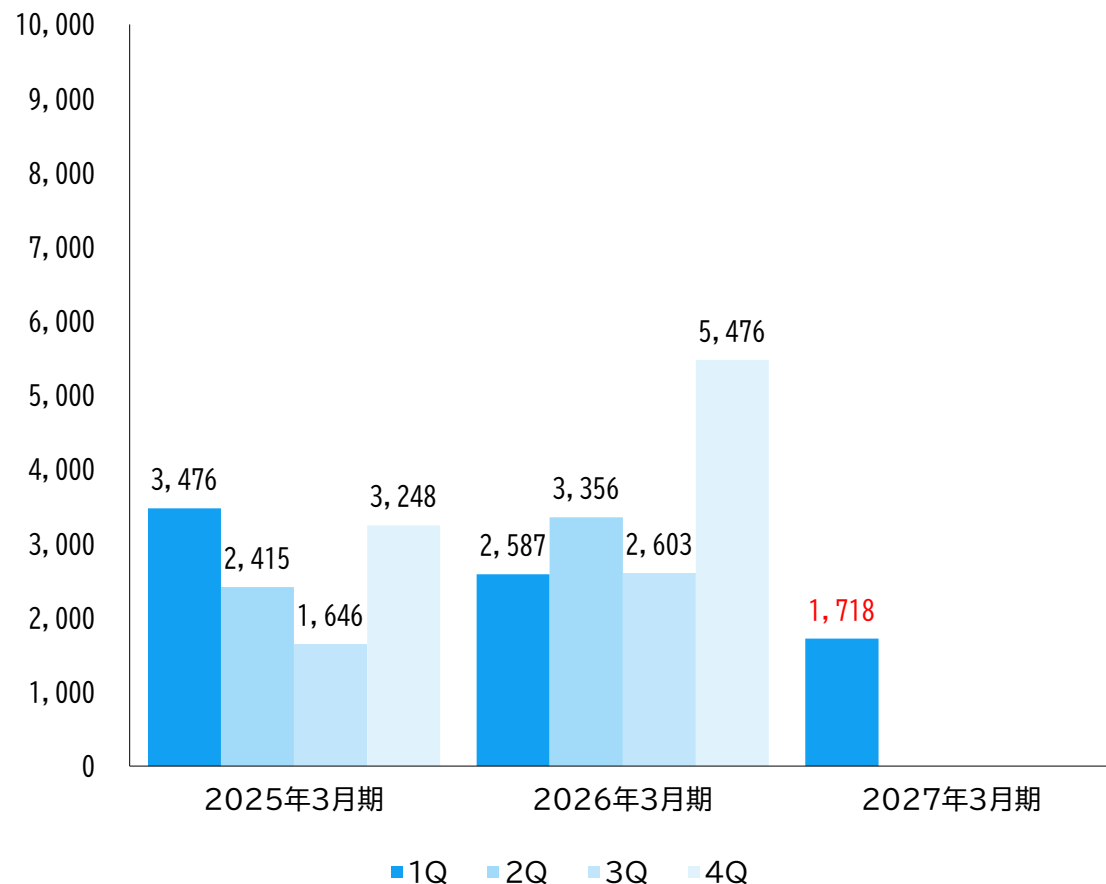


四半期業績推移(受注状況)

受注高は過去4位、受注残高は過去最高

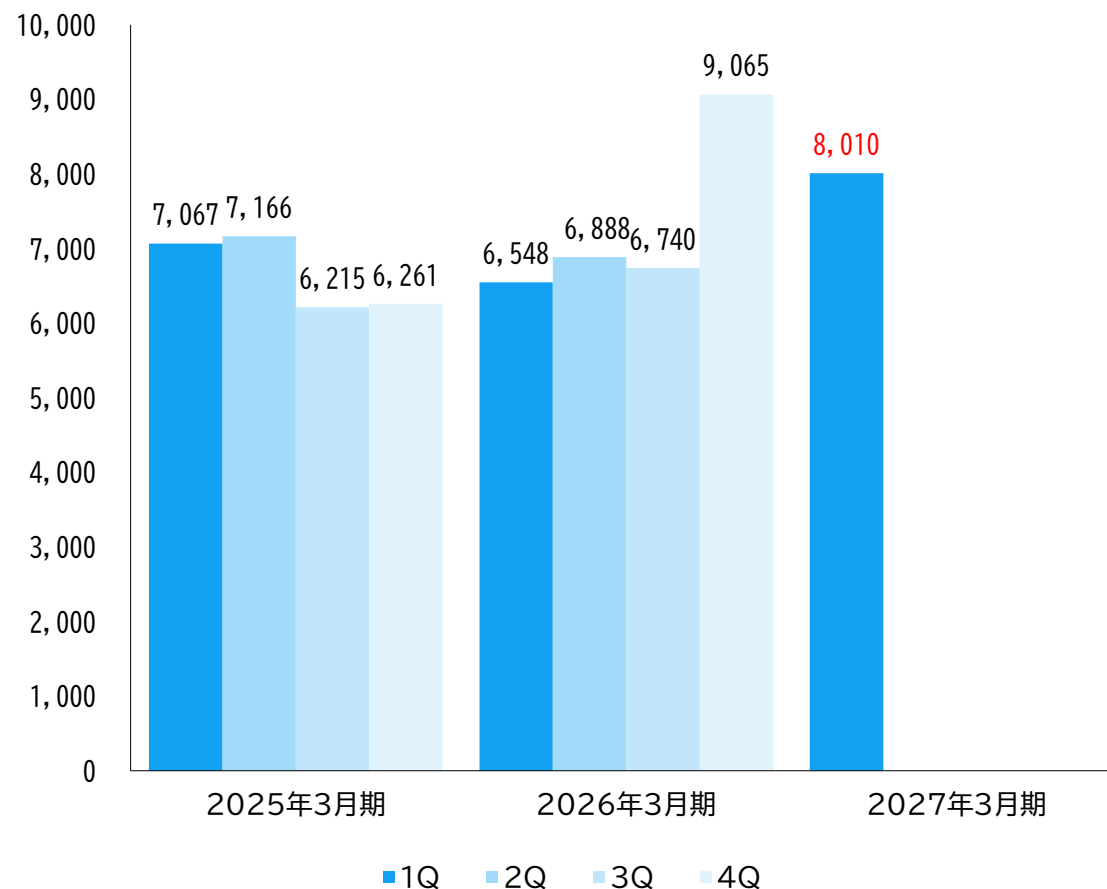
(単位:百万円)

受注高



(単位:百万円)

受注残高



第1四半期BF別の状況

社会基盤システムBF、宇宙先端システムBF、モバイルネットワークBFが大幅に増加

ビジネスフィールド	2026年3月期第1四半期		2027年3月期第1四半期		前年同期比 (%)
	売上高 (百万円)	構成比 (%)	売上高 (百万円)	構成比 (%)	
モバイルネットワーク	1 8 3	8. 0	2 2 1	8. 0	1 2 0. 4
インターネット	4 2 7	1 8. 6	3 6 9	1 3. 3	8 6. 6
社会基盤システム	1, 0 1 9	4 4. 3	1, 3 6 3	4 9. 2	1 3 3. 7
宇宙先端システム	6 6 9	2 9. 1	8 1 8	2 9. 5	1 2 2. 2
合計	2, 3 0 0	1 0 0. 0	2, 7 7 2	1 0 0. 0	1 2 0. 5

- モバイルネットワークBFは、全体的に減少傾向であるものの、一部大手通信事業者向けの大規模案件の開発が増加
- インターネットBFは、民間企業向けのDX関連の開発が増加したものの、非接触IC関連の開発ピークが過ぎたことなどにより減少
- 社会基盤システムBFは、司法分野をはじめとした官公庁向けの開発が引き続き好調
- 宇宙先端システムBFは、車両自動走行の研究開発案件や宇宙関連の開発が堅調

第1四半期BF別受注状況

受注高は前年度第4四半期の好調な受注により過去4位、受注残高は過去最高

ビジネスフィールド	2026年3月期第1四半期		2027年3月期第1四半期			
	受注高 (百万円)	受注残高 (百万円)	受注高 (百万円)	前年同期比 (%)	受注残高 (百万円)	前年同期比 (%)
モバイルネットワーク	1 6 9	1 6 5	1 4 9	8 7. 7	2 5 6	1 5 5. 5
インターネット	4 8 2	4 8 4	3 8 2	7 9. 3	4 6 7	9 6. 5
社会基盤システム	1, 2 0 8	5, 0 2 2	3 4 8	2 8. 8	6, 2 3 1	1 2 4. 1
宇宙先端システム	7 2 6	8 7 6	8 3 8	1 1 5. 4	1, 0 5 4	1 2 0. 3
合計	2, 5 8 7	6, 5 4 8	1, 7 1 8	6 6. 4	8, 0 1 0	1 2 2. 3

※ 受注残高のうち、今期売上貢献分は5, 576百万円(前期比16. 5%増)、来期以降売上貢献分は2, 434百万円(前期比38. 1%増)

- モバイルネットワークBFは、全体的に減少傾向だが、一部大手通信事業者向けの大規模案件により受注残高は大幅に増加
- インターネットBFは、非接触IC関連の開発ピークが過ぎたことなどにより受注が減少
- 社会基盤システムBFは、前年度第4四半期の好調な受注により、受注残高は大幅に増加
- 宇宙先端システムBFは、宇宙関連の開発案件の受注が増加し、受注残高は大幅に増加

2027年3月期

通期業績見通し

2027年3月期業績見通し

4-6月期は好調だったが、概ね計画範囲内であり、業績予想は据え置く

	2026年3月期実績(百万円)	2027年3月期業績予想(百万円)	前期比(%)
売上高	11,220	11,800	105.2
売上原価	7,893	8,160	103.4
売上総利益	3,326	3,640	109.4
販売管理費	1,446	1,660	114.7
営業利益 (営業利益率)	1,879 (16.8%)	1,980 (16.8%)	105.3
経常利益 (経常利益率)	2,062 (18.4%)	2,300 (19.5%)	111.5
当期純利益	1,509	1,575	104.3

売上高 前期と同様の需要環境を見込み、官公庁主体の社会基盤分野のビジネスを中心に推進し、前期比約5%増を見込む

売上原価 社員数増加や、定期昇給に加えベースアップによる人件費の増加、外注費の増加などにより、増加を見込む

販売管理費 ベースアップなどによる労務費の増加、研究開発の大幅な増加などにより、増加を見込む

営業外損益 研究開発の補助金収入の増加などにより、増加を見込む

当期純利益 前期は賃上げ促進税制の適用により増加したが、今期は税金費用を法定実効税率どおりで計算

2027年3月期BF別業績見通し

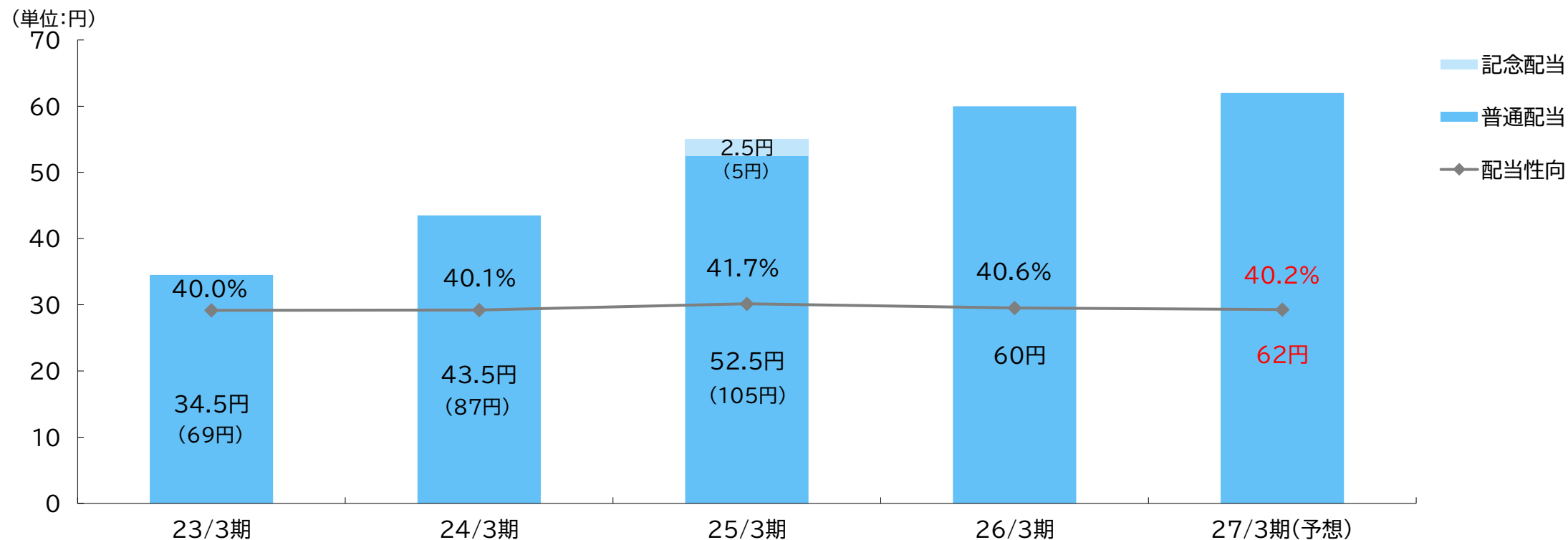
社会基盤システムBF、宇宙先端システムBFが増加する見込み

ビジネス フィールド	期初の想定	予想	第1四半期状況判断	予想
モバイル ネットワーク	一部大手通信事業者向けの大規模案件の開発があるものの、全体的には減少	➡	全体的に減少傾向であるものの、今期は一部大手通信事業者向けの大規模案件の開発が増加し、前期並みを見込む	➡
インターネット	民間企業向けのDX関連の開発が増加するものの、他のBFとの人員配分の最適化により、減少	➡	民間企業向けのDX関連の開発が増加するものの、非接触IC関連の開発ピークが過ぎたことなどにより減少し、ほぼ想定通りの展開	➡
社会基盤 システム	医療分野や環境分野の開発、司法分野をはじめとした官公庁向けの開発が引き続き好調で、増加	➡	司法分野をはじめとした官公庁向けの開発が引き続き好調で、ほぼ想定通りの展開	➡
宇宙先端 システム	車両自動走行の研究開発案件や宇宙関連の開発が堅調であることに加え、国の研究機関向けの開発が増加し、増加	➡	車両自動走行の研究開発案件や宇宙関連の開発が堅調であることに加え、国の研究機関向けの開発が増加し、ほぼ想定通りの展開	➡

配当の方針

配当性向40%を目安とし、前期比で每期増配の方針

2027年3月期は、1株当たり62円の配当予想とする。



※2025年10月1日付で、普通株式1株につき2株の割合で株式分割を実施しておりますが、2023年3月期の期首に株式分割が行われたと仮定して1株当たり配当金を算出しております。
()は株式分割前の金額。

ご参考: ニュースリリース一覧(2026年2月～7月)

2026年		
2月 4日	<u>個人投資家向け会社説明会(Webセミナー)を開催(2026年2月16日開催)</u>	4月14日 <u>Kaggle「第7回全国医療AIコンテスト」にて当社社員参加チームが優勝</u>
2月10日	<u>宇宙戦略基金(第二期)「月面インフラ構築に資する要素技術」に採択</u>	4月21日 <u>「2026年度 世田谷ITカレッジ」開講</u>
2月18日	<u>JAXA宇宙探査イノベーションハブ Moon to Mars Innovation 第13回研究提案募集に共同研究先として採択内定</u>	6月 2日 <u>東大駒場リサーチキャンパス公開2026にて空間設計ソフトウェア「Convex Space Visualizer」を紹介</u>
3月 6日	<u>技術専門書「リザーバーコンピューティング～技術の現在地と最新動向～」に当社社員が技術解説を執筆</u>	6月 9日 <u>大阪大学量子情報・量子生命研究センター(QIQB)、セック、順天堂大学計算待ち時間を短縮する量子マルチプログラミングを開発</u>
3月 6日	<u>世田谷区「ハローキャリアワーク」小・中学生向け宇宙ロボットプログラミング講座を開催(2026年4月3日・11日開催)</u>	7月 9日 <u>第7回「きぼう」ロボットプログラミング競技会(Kibo-RPC)に協賛～若手エンジニア育成と宇宙ロボット技術の発展を支援～</u>
3月 9日	<u>「健康経営優良法人2026(大規模法人部門)」に認定</u>	7月22日 <u>フロンティアビジネス研究会 公開シンポジウム「宇宙開発の未来共創2026」に登壇</u>
4月 9日	<u>AI・人工知能EXPO 出展</u>	7月27日 <u>最先端技術と社会をつなぐラジオ番組「SETAGAYA TECH JUNCTION」を提供 ― 宇宙、量子、AI、ロボティクスなど最先端技術の魅力と可能性を発信 ―</u>
4月10日	<u>量子コンピューティングEXPO出展</u>	7月30日 <u>【共同プレスリリース】小惑星探査機「はやぶさ2」、太陽系天体フライバイ探査における最小距離を更新 ～小惑星トリフネフライバイにおける航法誘導制御の結果報告～</u>

- この資料の目的は、当社へのご理解を深めていただくためのIR情報をご提供することであり、投資の勧誘を目的としたものではありません。投資につきましては、ご自身でご判断願います。
- この資料には、当社の現在の計画、戦略、将来の業績に関する見通しなどが記載されております。こうした記述は、当社の将来の業績を保証するものではなく、経営環境をはじめ、さまざまな外部的要因の影響等により変化しうることをご承知おきください。
- この資料の作成に際しましては、細心の注意を払っておりますが、内容につきましていかなる保証を行うものでなく、この資料を使用したことによって生じたあらゆる損害などについて、当社は一切責任を負うものではありません。

